

平成28年度 58号

アプローチ

函館市学校教育推進の指針

最後までやり切る指導の
一層の充実を目指して

夢とロマンに満ち溢れた教育は未来を創造する原動力

函館市教育委員会

函館市の学校教育の充実に向けて

私たちは、平成20年度にスタートした「函館市義務教育基本計画」に基づき、地域とともに、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ教育を進めています。推進期間が残すところ2年となり、本基本計画の理念の実現に向け、函館の教育の一層の充実を図ります。

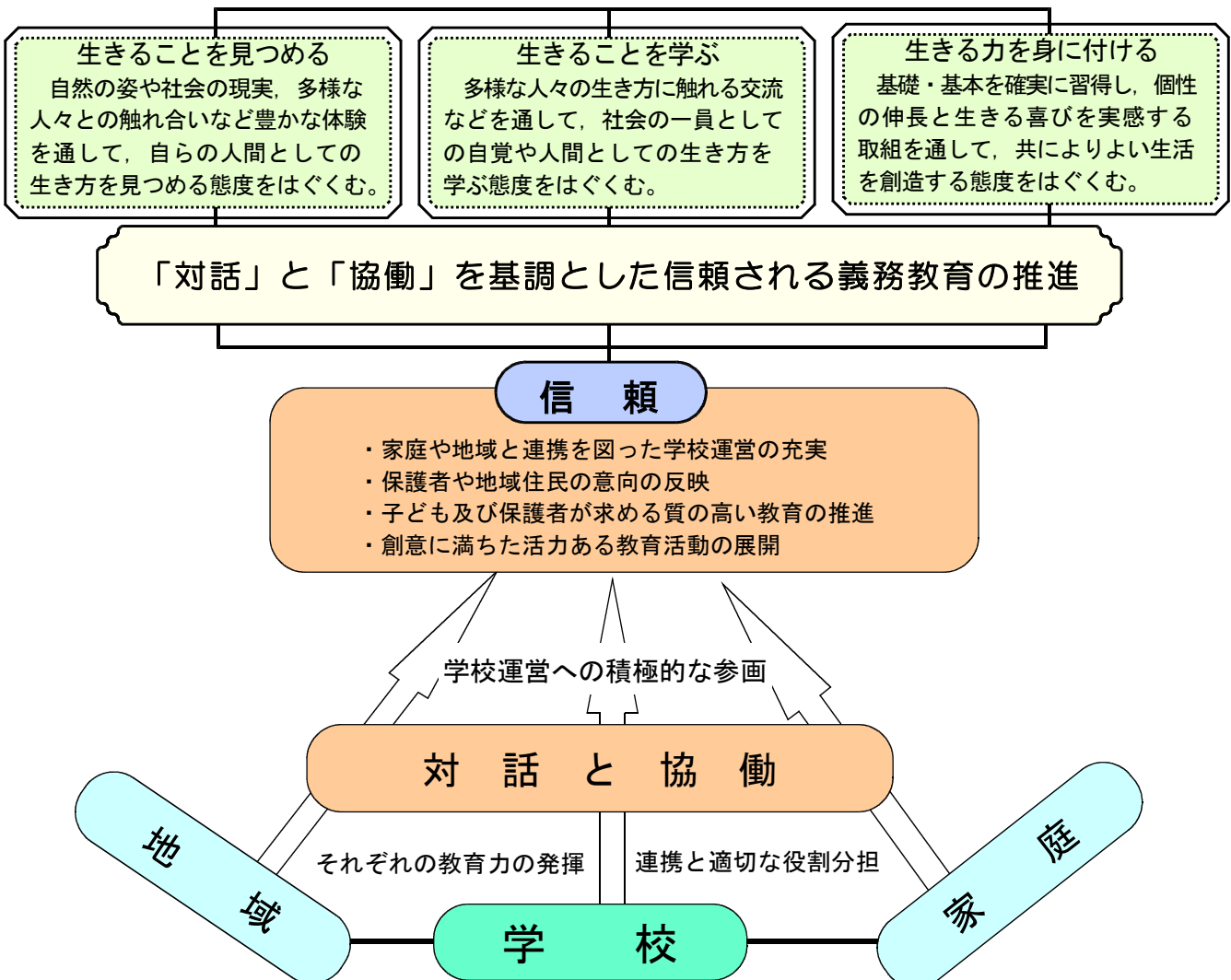
〈函館市義務教育の基本理念〉

心豊かに学び 共に未来のふるさとを拓く子どもをはぐくむ

めざす子ども像

- **個性豊かに生きる子ども**
「確かな学力」を身に付け、個性や創造性を発揮し、自らの生き方を創り出す子どもをはぐくみます。
- **優しさをもって生きる子ども**
責任とモラルを重んじ、他者を思いやり、人間尊重の精神や自他の生命を大切にすることを学ばせ、子どもをはぐくみます。
- **たくましく生きる子ども**
健やかな心と体を持ち、理想や自己の目標に向かって努力する活力に満ちた子どもをはぐくみます。
- **函館に生きる子ども**
ふるさとのよさを見付け、誇りをもち、先人の生き方に学び、進取の精神をもって新たな文化を創造する子どもをはぐくみます。
- **共に未来を生きる子ども**
社会の変化に主体的に対応する力を持ち、広い視野に立って社会に貢献する子どもをはぐくみます。

基本姿勢 生きることを見つめ 生きることを学ぶ学校教育の創造



平成28年度
重点指導事項

I	粘り強さを育む組織的な学習指導の 一層の充実と検証
II	組織的な支援を目指した特別支援教育の 一層の充実と検証
III	支持的風土を築く学年・学級経営の 一層の充実と検証
IV	今日的な教育課題の解決を図る取組の 一層の充実と検証

「最後までやり切る指導の一層の充実を目指して」

学校教育の指針である「アプローチ」は、「函館市義務教育基本計画」の実現を目指し、年度ごとに具体的な取組のための指針を示しているものです。

基本計画の後期における重点項目策定に係り、各学校(園)の実態や本市の教育課題を受け、4つの重点指導事項として整理し、取組を進めてまいりました。

平成28年度は、マネジメントサイクルを踏まえ、これまでの「推進」「改善・充実」をさらに一步前進させて、「一層の充実と検証」とし、最終年度である平成29年度「総点検と計画」につなげることができるよう4つの重点指導事項を改訂しました。



「探究型の授業」(アクティブ・ラーニング)を目指して

学習指導要領(解説)や評価規準をもとに、目標や内容等を確認しましょう。

目標の達成度や取組の状況を明らかにして改善に生かしましょう。

「探究型の授業」を目指していくためには、問題解決的な学習の過程(「めあて」「よそう」「たしかめ」「まとめ」)を通して、課題解決に向けた取組のよさを実感させることが大切です。

めあて

授業のはじめに「めあて」をわかりやすい言葉で提示しましょう。



よそう

既習事項と関連付けて、見通しをもたせましょう。



たしかめ

学び合いの活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりさせましょう。



まとめ

「まとめ・振り返り」の活動を通して、授業で何が身に付いたのかが実感できるようにしましょう。



「今日は何を学ぶのかな?」

子どもの意欲を大切にし、子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりを行うためには、学習指導要領(解説)や評価規準に基づいて、学習のめあてをわかりやすく示すことが大切です。

個人思考

ペアやグループ学習 など

考えを共有する

比較する

など

新たに気付く

共通点に気付く

相違に気付く

考えが深まる

考えが広がる

など



「わかった!」

「めあて」に正対した「まとめ」を行うとともに、類題や発展的な問題などを効果的に取り入れ、「何がわかったか」「何ができるようになったか」を実感できるようにさせることが大切です。

「探究型の授業」**具体化する上での視点** (アクティブ・ラーニング)

- 子どもたちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学び
- 他者との協働や他との関わりを通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学び

重点指導事項Ⅰ：粘り強さを育む組織的な学習指導の一層の充実と検証

1 「探究型の授業」の一層の充実

【達成目標】□ 問題解決的な学習を通して、目標の実現を図る「探究型の授業」（アクティブ・ラーニング）に確実に取り組む。

- 学習指導要領（解説）や評価規準等に基づいて、適切な目標や内容を設定し、子どもが主体的・協働的に学ぶ「探究型の授業」（アクティブ・ラーニング）に確実に取り組みましょう。
- 評価規準に基づいた「本時のめあて」をわかりやすく提示し、課題解決の見通しをもたせるとともに、授業で何が身に付いたのかが実感できる「本時のまとめ・振り返り」の活動を徹底しましょう。
- ペアやグループなどの「学び合い」の活動を積極的に取り入れ、全ての子どもが思考を広げたり、深めたりする学習の工夫を図りましょう。

【p3, 4へ】

2 学習規律の徹底

【達成目標】□ 学習規律の定着状況を検証するとともに、校内において指導の改善点を共有し、確実に推進する。

- 学習規律の定着状況を検証するとともに、学級間の指導の差異などにも着目し、これまでの取組の課題や改善点を明らかにしましょう。
- 具体的な改善方を教職員で共有するとともに、校内組織を生かし、学級掲示の整備を進めるなど、全校体制で確実に取り組みましょう。
- 子どもの自治活動等において、子ども自身に学習規律の大切さや、よりよい学習態度について考えさせるほか、学習場面での評価を積極的に進めましょう。

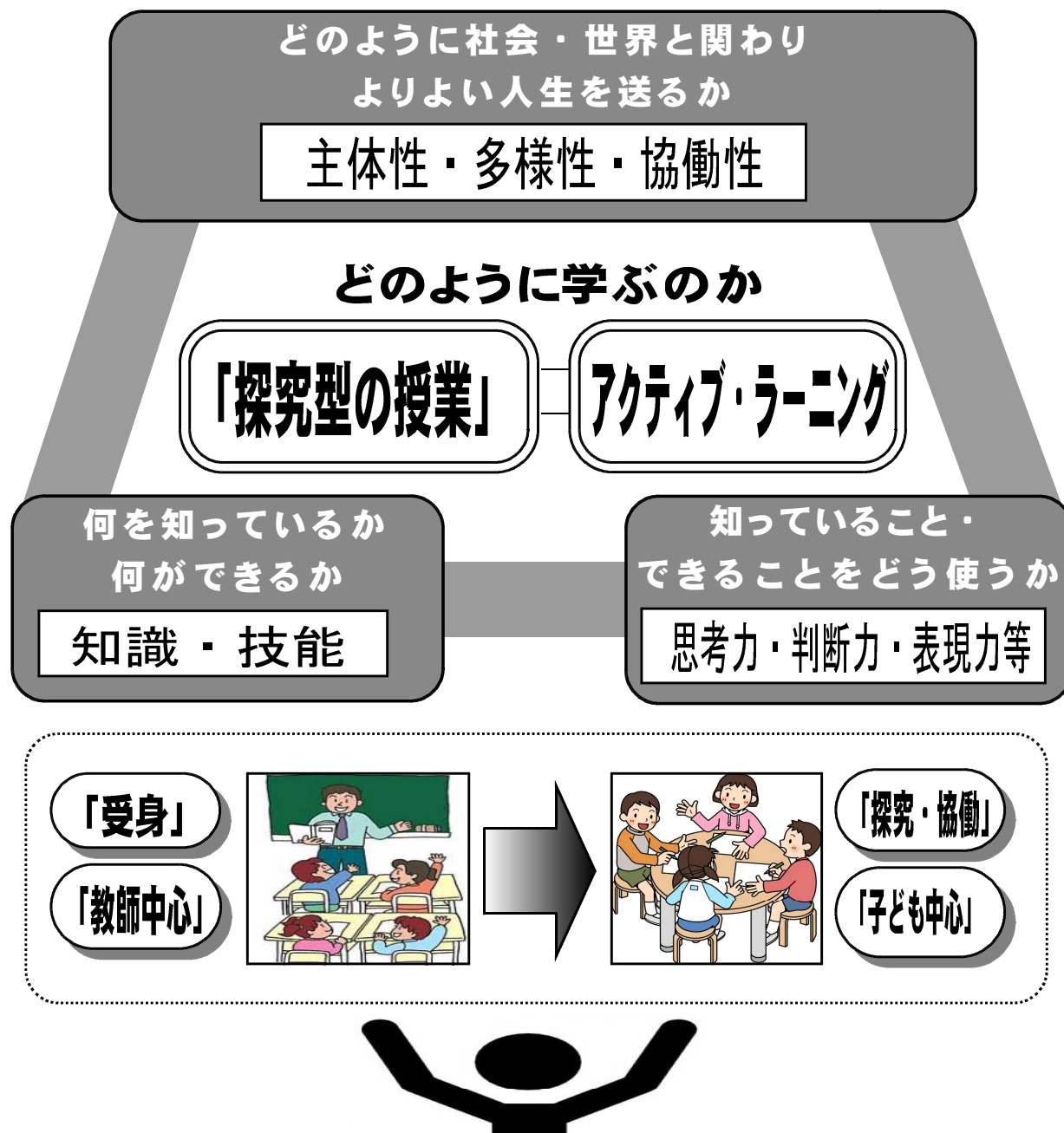
3 主体的な学習態度の定着を図る指導の充実

【達成目標】□ 子どもの主体的な学習態度を育成する指導について検証するとともに、改善点を保護者などと共有し、確実に推進する。

- 子どもの学習意欲を高める指導について検証し、授業や家庭学習における課題を明らかにした上で指導方法の工夫・改善に努めましょう。
- 家庭学習の取組について、家庭学習ノートや点検表などを活用し、子ども自身が取組を振り返ることができるよう計画的に指導を進めましょう。
- 学習意識調査や全国学力・学習状況調査の結果などを参考に、望ましい生活習慣等の定着に向け、早寝・早起き・朝ご飯、TV・ゲームや家庭学習の時間などの実態を保護者や地域と共有し、地域ぐるみで取り組みましょう。

「探究型の授業」とアクティブ・ラーニング

社会の変化を予測することが困難な時代を迎え、子どもたちに必要な力をはぐくむためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習「アクティブ・ラーニング」へと質的な転換を図ることが求められています。



主体的・協働的な学習を支える大切な要素の1つは・・・

支持的風土のある学級づくり

【重点指導事項Ⅲへ】

重点指導事項Ⅱ：組織的な支援を目指した特別支援教育の一層の充実と検証

1 子どもの成長を支える支援の充実

【達成目標】 □ 「はこだて子どもサポートシート」に基づいた支援の充実を図る。

- 子どもの実態、保護者や本人の願い等を踏まえ、特別支援教育コーディネーターや学級担任が中心となり、「はこだて子どもサポートシート」を作成しましょう。
- 校内支援委員会において、「はこだて子どもサポートシート」に基づき、「いつまでに、だれが、何を、どのように」を明確にし、具体的な支援を進めましょう。
- 関係機関と連携する際は、校内支援委員会において十分に協議し、課題や連携の方針を明確にしましょう。

【活用の手順】

- ① 客観的な資料をもとに子どもの実態を把握し「はこだて子どもサポートシート」を作成します。

② 作成したシートに基づき、支援を行います。

③ 子どもの変容に基づき、指導や支援の内容を再検討します。

「はこだて子どもサポートシート」様式Bの記入例

【様式 B】

指導・支援内容		短期目標 (7月までの目標)	指導・支援の方法	評価 (子どもの様子)
生活	(日常生活の指導) ・役割 ・手伝い	・在籍級や交流学級の環境に慣れ、様々な活動に自信をもって取り組む。	・(指導者)がスケジュールを個別に作成し、活動に見通しをもたせる。 ・(指導者)が練習をさせる。	
	教科等 国語	・聞く ・話す	・(指導者)が話す順番を絵カードで示す。 ・(指導者)がメモするように指示する。	
学	算数	・数と計算	・かけ算や割り算の意味が分かり、簡単な計算ができる。	
	自立活動	・コミュニケーションに関すること	・場や相手の状況に応じて主体的にコミュニケーションをとる。	
習			・(指導者)が「がんばりカード」を作成し、約束やルールを守れたときにシールを貼らせ、できばえを視覚化する。 ・全教職員でできばえを賞賛する。 ・実際の場面を活用し、	・友だちに対して自分から関わりをもとめようとする場面が増えた。 ・友達からの問いかけに対しても受け答えができるようになった。 ・休み時間や休憩時間では、友達との関わりを楽しもうとする姿も見られた。

※ 交流及び共同学習の計画について記載すること。

【作成の手順】

- ① 保護者や本人の願いを踏まえるとともに、子どもの実態把握を行います。

② 短期目標は期間、達成基準や行動目標を具体的に設定します。

③ 指導・支援の方法は「だれが」、「どのように」支援するのかを明確にします。

※ 「函館市の特別支援教育」(H27.10 函館市教育委員会) P13を参照願います。

※ 「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」は、他の様式の活用も可能です。

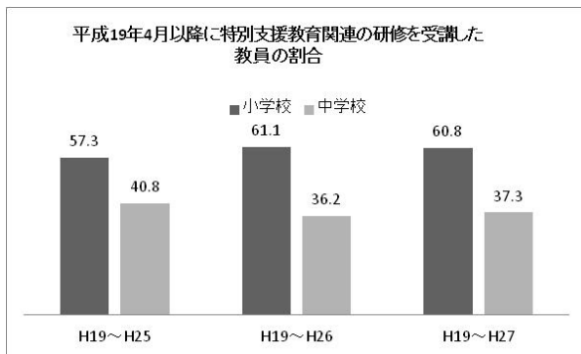
2 専門性の向上を目指した研修の一層の充実

【達成目標】 □ 全ての教職員が研修を通じて専門性を高め、支援の質と組織力の一層の向上を図る。

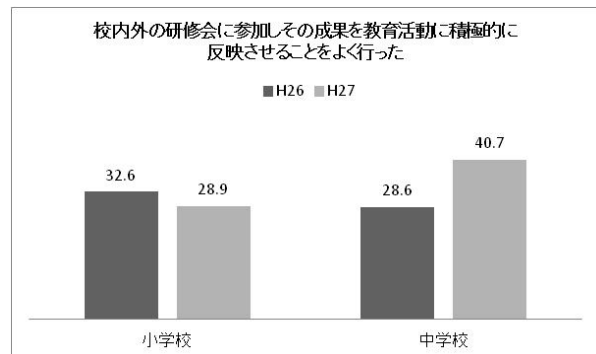
- 事例研修や「校内研修プログラム」などを活用した校内研修を行い、全ての教職員が支援の質の向上に努めるとともに、学校としての組織力を高めましょう。
- 教育センターなどで実施している研修を計画的に受講し、特別支援教育の理論のほか、知能検査や発達にかかわる相談の技能の習得などに努めるとともに、研修内容を教職員で共有し、支援に生かしましょう。

学校としての組織力を高める研修の充実に努めましょう。

特別支援教育に関する研修を受講した教員の割合に大きな変化はありません。また、研修の成果を教育活動に反映させる取組を進める必要があります。



～平成27年度 特別支援教育体制整備状況調査から～



～平成27年度 全国学力・学習状況調査学校質問紙から～

このことから

計画的に研修を受講し、支援に生かすことが大切です。

【校内研修の内容例】

自校の課題を明確にするとともに、必要な研修を計画的に行い支援に生かします。

研修内容〈例〉	研修のねらい
教育上特別な配慮を要する子どもの特性の理解	教育上特別な配慮を要する子どもの心理や教師の支援の在り方について理解します。
実態把握、支援方法の検討	実態把握の仕方や支援方法について理解します。
「はこだて子どもサポートシート」の作成	本シートの作成を通して、指導や支援の見通しをもちます。
教育相談	発達に関する相談の技法等を身に付けます。
学級経営（指導や支援、教師の言葉かけ、障がいの理解）	教育上特別な配慮を要する子どもが在籍する際の学級経営について理解します。
授業づくり	教育上特別な配慮を要する子どもが在籍する際の授業づくりについて理解します。

【函館市南北海道教育センター専門研修】

平成27年度から29年度までの3年間は全て同内容で開設します。計画的に受講することが可能です。

〈基礎講座〉	〈応用講座〉
◇特別支援教育概論	◇WISC-IV応用
◇校内支援体制の充実	◇アセスメントと支援
◇子どもへの対応	◇子どもへの対応の実際
◇WISC-IV基礎	◇スーパーバイズ

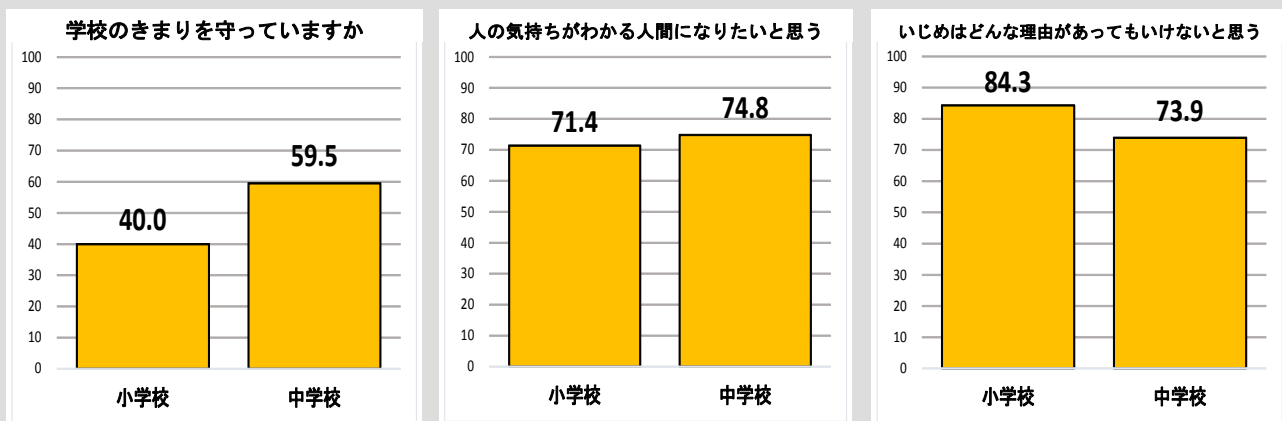
※ 詳細については、「函館市の特別支援教育」(H27.10 函館市教育委員会)および「平成28年度 事業案内」をご覧ください。

函館市教育委員会は、サポート・エリア・ネットワーク(SAN)の構築を目指しており、多くの先生方が研修を受講することを期待しています。

重点指導事項Ⅲ：支持的風土を築く学年・学級経営の一層の充実と検証

～道徳の時間を要とした道徳教育の充実～

「優しさをもって生きる子ども」の育成を目指して、積極的に道徳の授業実践を行うとともに、道徳の教科化に向けた体制整備を進めましょう。



～H27全国学力・学習状況調査から～ 「当てはまる」と答えた児童生徒の割合 (%)

1 教科化に向けた道徳教育の一層の充実

【達成目標】 □ 校長の方針の下に、子どもの実態を踏まえ、道徳教育の重点目標の実現に向けた指導体制の充実を図る。

- 道徳教育の充実に当たっては、道徳教育推進教師等の役割を明確にし、組織の活性化を図るとともに、道徳の教科化に向けて目的や改善の要点等について理解を深める研修を行いましょう。
- 道徳の時間の実施に当たっては、学習指導要領解説で内容項目の指導のポイントを確認するとともに、「わたしたちの道徳」などの教材を活用し、ねらいとする価値に迫る授業づくりに取り組みましょう。

「考える道徳」「議論する道徳」への転換

答えが一つではない道徳的な課題を、一人ひとりの児童生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図ることが求められています。

道徳の時間の課題例

- 「道徳の時間」は、各教科等に比べて軽視されがち
- 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導
- 発達の段階などを十分に踏まえず、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業

具体的なポイント

- 道徳科に検定教科書を導入
- 内容について、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善
 - ・「個性の尊重」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加
- 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫
- 数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握

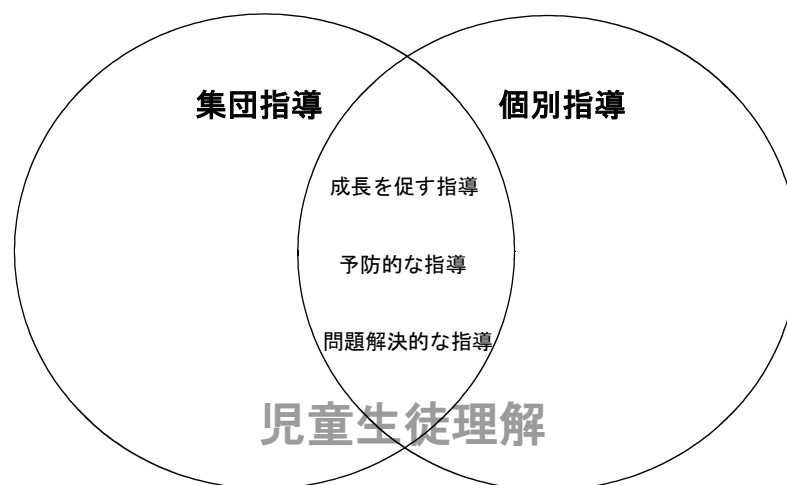
2 支持的風土を築く指導の徹底

【達成目標】 □ 子どもが所属感や充実感を味わうことのできる学年・学級経営を徹底する。

- 観察や面談、検査など、多様な方法で子ども理解を図り、子どもが内面に抱えている不安や悩みを把握するとともに、子どもが安心して生活できるよう教育相談を充実させましょう。
- よりよい集団を育成するため、集団におけるルールの遵守を徹底するとともに、自治活動を通して、集団生活の向上に寄与する態度や能力を育成する指導を充実させましょう。
- 子ども一人ひとりが個性をよりよく生かしたり、発揮したりできるよう、自己決定や自己選択の機会を設け、自己実現の喜びを味わわせる場面を意図的・計画的に設定しましょう。
- よりよい学年・学級経営の在り方について研修を深め、小学校における教科担任制のほか、チーム・ティーチングなどの指導体制の工夫を図るなど、学校ぐるみで支持的風土を築く具体的な指導を充実させましょう。

集団指導と個別指導

集団指導を通して個を育成し、個の成長が集団を発展させるという相互作用により、児童生徒の力を最大限に伸ばすことができるという指導原理があります。



【指導における留意点】

あらゆる場面において、児童生徒が人として平等な立場で互いに理解及び信頼し、そして、集団の目標に向かって励まし合いながら成長できる集団をつくるのが大切です。そのためには、以下のようなことを基盤とした集団づくりの工夫が必要です。

児童生徒が、

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| (1) 安心して生活できる | (6) 集団での存在感を実感できる |
| (2) 個性を発揮できる | (7) 他の児童生徒と好ましい人間関係を築ける |
| (3) 自己決定の機会を持てる | (8) 自己肯定感・自己有用感を培うことができる |
| (4) 集団に貢献できる役割を持てる | (9) 自己実現の喜びを味わうことができる |
| (5) 達成感・成就感を持つことができる | |

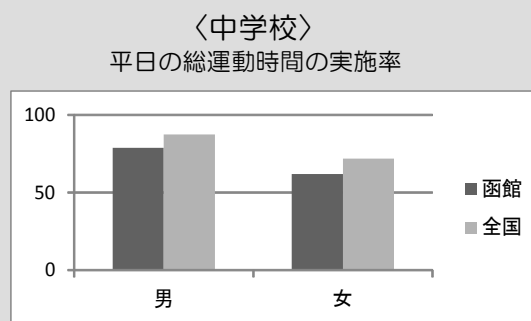
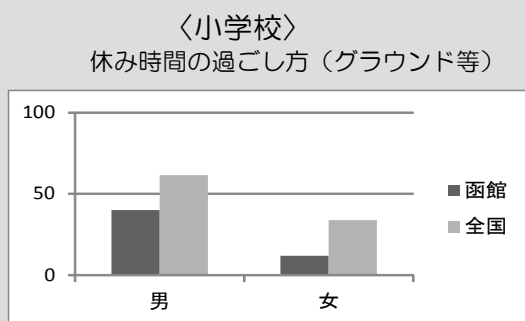
～生徒指導提要より抜粋～

重点指導事項Ⅳ：今日的な教育課題の解決を図る取組の一層の充実と検証

1 体力向上の取組の充実

【達成目標】□ これまでの体力向上の取組について検証し、課題解決に向けた取組を確実に推進する。

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査などの結果を踏まえ、一人ひとりの子どもの実態に応じた取組を充実させましょう。
- 体力の向上を図るため、体育の授業において、運動量を十分に確保できるよう、意図的・計画的な指導を徹底しましょう。
- 子どもが日常的に運動に取り組むことができるよう、休み時間等の遊び方を工夫したり、体育的行事等の活動内容を工夫したりしましょう。



～平成27年度全国体力、運動能力・運動習慣調査より～

2 ICT機器の活用の推進

【達成目標】□ ICT機器を効果的に活用した教育実践を確実に推進する。

- 実物投影機をはじめとしたICT機器について、子どもも教師もいつでも使えるように整備し、授業等で積極的に活用しましょう。
- ICT機器の特性を理解し、操作に習熟するだけでなく、授業等における効果的な指導方法について校内で研修を深めましょう。

3 食に関する指導の充実

【達成目標】□ これまで取り組んできた食に関する指導について検証し、課題解決に向けた取組を確実に推進する。

- 食に関する指導内容の一層の定着を図るため、学級担任や教科担任、栄養教諭等が役割を明確にし、指導計画に基づいた取組を確実に進めましょう。
- 学校給食を通じて、望ましい食習慣や食事のマナーを身に付けたり、地場産物の活用による地域の自然、食文化、産業等についての理解を深めたりするなど、食に関する知識や技能等をはぐくむ指導を充実させましょう。

4 情報モラル教育の充実

【達成目標】□ これまで取り組んできた情報モラル教育について検証し、課題解決に向けた取組を確実に推進する。

- 道徳の授業や情報モラル教室などにおいて、子どもたちがケータイ等の利便性やネットトラブルなどの危険性について理解し、適切に使用できるよう指導しましょう。
- 家庭や関係機関等と連携し、テレビやゲーム、ケータイ等に触れる時間を決めたり、ノーテレビ・ノーゲームデイを設定したりするなど、望ましい生活習慣の定着を図る取組を確実に進めましょう。
- 子どもたちの発達の段階に応じた情報モラルの指導内容を検証し、最新の情報に基づいた研修を通じて、指導の一層の充実させましょう。

《キャリア教育》

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育です。

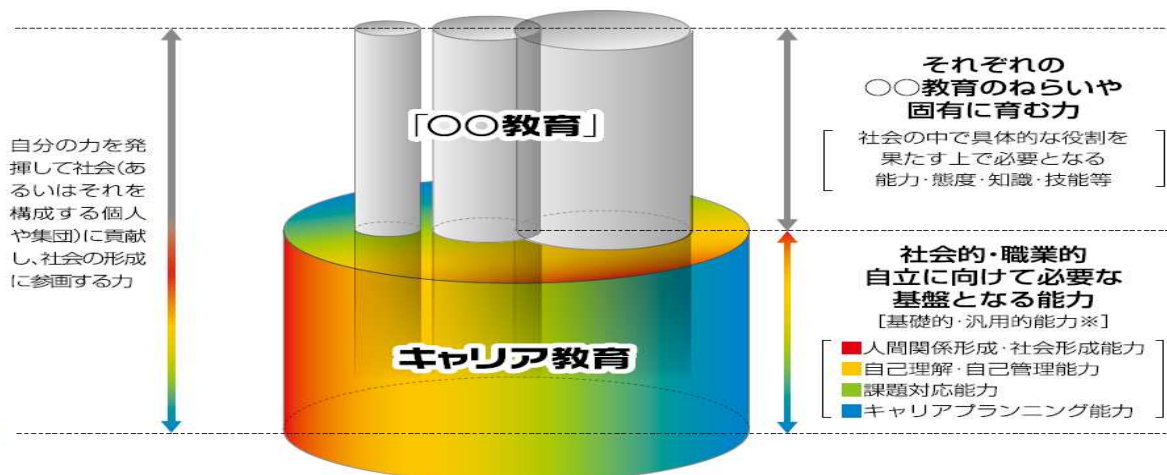


キャリア教育と、いわゆる「○○教育」の多くは、社会の形成に参画するための力を育成するという点において共通しています。各学校で取り組んでいる「○○教育」を生かしながらキャリア教育を充実させましょう。

《例》「シティズンシップ教育」「主権者教育」「健康教育」「食育」「防災教育」「人権教育」「租税教育」「エネルギー教育」「消費者教育」「環境教育」「法教育」「福祉教育」など

Point

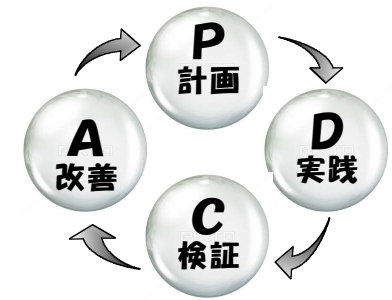
キャリア教育と「○○教育」との共通部分に注目してとらえる



～平成24年8月 キャリア教育を「デザイン」する 文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター～

学校体制の充実を目指して

次期(新)学習指導要領実施に向け、各学校の改善プラン等に基づく、マネジメントサイクルを確立しましょう。
 検証(評価)・改善に結びつくように、より具体的な目標を設定することが大切です。



今後5年間のスケジュール(予定)

※ 以下の4つの分野を例としてお示しします。

	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)	32年度(2020)
	函館市義務教育基本計画(現行) 「最後までやりきる指導」の徹底		函館市教育振興基本計画		
			新学習指導要領移行期間(小)		新学習指導要領完全実施(小)
				新学習指導要領移行期間(中)	
道徳教育	道徳科に関する研究推進(教科化移行期間)(小)		道徳科(新学習指導要領による授業)実施(小)		
		道徳科に関する研究推進(教科化移行期間)(中)		道徳科(新学習指導要領による授業)実施(中)	
学力向上	「探究型」の授業の徹底				
	アクティブ・ラーニングに関する研究 授業イメージの共有(全体研修会開催) ブロック研究の推進(ブロック研修会開催)		アクティブ・ラーニング 導入		アクティブ・ラーニング 実施
英語教育	英語科に関する研究推進		中3全国学テ(英語)		
	小学校全学年外国語活動試行<予定>		小学校全学年外国語活動実施(5,6年英語科)<予定>		
特別支援教育	SAN(サポ-トエリアネットワーク)体制づくり		SANによる支援体制実施		